

子ども総合センターだより

あした

明日もしあわせ通信 (第48号) 令和2年6月号

新型コロナウイルスで家族の時間がたっぷり



2年前まで子育て困難な家庭として見守っていたお母さんから、うれしい、たくましいメールをいただきました。「今はコロナで大変な時なので、私も旦那さんも、休職したり、在宅のお仕事に切り替えたり…。でも、いい機会と思って、身体も心も休めております」と。

自宅にいる時間が長くなり、また、さまざまな不安やストレスから、世界的にもDVが増えている話を聞きます。ソーシャルディスタンス(社会的距離)＝個人個人が距離を保つ。感染防止からよく聞く言葉になりました。この社会的距離が近いほど親密度が増します。

家族はより親密度が高く、同じ見方を共有できているときは、認め合い心地よい関係でいられますが、そうでないと、否定された思いからストレスが増してしまい、他人以上に、心ない言葉を出してしまうことになりかねません。そうしたときには、少し時間や場所の距離を置くことも大切です。

ステイホームの状況の中で家族とどう向き合っているのでしょうか。普段は時間に追われて見えなかった家族のいいところがたくさん見えると、心の距離は近くなり親密度が増します。自分の好きなどころを3つ。家族一人一人の好きなどころを3つ書いてみるのも楽しいですよ。

新型コロナウイルスがくれた自宅で過ごすたくさんの時間。家族で何をしようかな。(H.I)

適応指導教室「はばたき」 ～思春期の子どもと向き合って～

新学期がスタートしたものの、学校は臨時休校となりました。休校中子どもたちは手伝いや家庭学習、好きなことなどをして、家庭でゆったりと過ごせたことと思います。

さて、思春期になると、子どもたちは普通に過ごしているように見えても、ふとしたことで気持ちが沈んだり悩んだりすることがあります。例えば、学習への不安から家庭で「どうせ今から勉強しても無駄」などと投げやりな言葉を発したり、友達からの何気ない言葉に傷ついたりします。

この時期は、子どもたちの感受性が特に敏感になっています。自分のマイナス面や悩みを知られることをかっこ悪いと思ったり、自分を知られたくなくて話さなかったりします。しかし、自分の思いを抱えられない子どもから話しかけて来たときには、まず子どもの思いをじっくり聞き、何よりも胸の内を話してくれたことへの感謝の気持ちを子どもに伝えてください。また、話し終わった後、もし子どもの考えに明らかに間違いがあるときには、正したり、時には叱ったりすることも大人の責任です。

子どもの良いところを認めつつ、必要なアドバイスをしていくことが子どもの成長には大切だと感じています。

下灘の隠れキリシタン像

下灘に隠れキリシタン像(見かけは地蔵)があるのをご存じですか。

一体は、日喰(ひじき)地区にある砂岩でつくられた高さ43センチメートルの座像で、地元では「地蔵様」と呼ばれています。右手に鉢杵(こしよ:法具の一つ)左手に数珠(じゆず)を持つ大師像ですが、左胸に十字があり、台座に蓮弁(れんべん:はすの花弁)がないことから、隠れキリシタン像といわれています。像の左に「安永4(1775)年」、右に「施主源助」と刻まれています。



日喰の地蔵様

もう一体は、鳥越峠の奥東(おくひがし)地区にある像で、やはり胸に十字があり、台座に蓮弁がないことから、これも隠れキリシタン像と思われます。安山岩で造られた高さ49センチの座像で、台石に「天明3(1783)年、豊田奥組村中」と記されています。なぜ下灘にあるのでしょうか。

そもそも、鹿児島にキリスト教が伝わったのは1549年。戦乱の世では文明と武器が歓迎され、九州から中国、京都へと広がっていきました。四国は本来の目的地ではなく、悪天候のため松山市の堀江に寄港したのが布教のきっかけと言われています。その後事情が一変し、秀吉や徳川幕府による禁教と追放。しかし四国は信徒が増えたとか。京都や大阪から逃れてきたからです。そしてもっと人目のつかないへき地へと移り住んだのでしょう。キリシタン大師像は大洲市や内子町辺りに多いそうです。下灘にあるのは、石畳街道で内子とつながっているからかもしれません。あくまでも推測ですが。

二体の像は、いずれも市指定の文化財です。厳しい迫害の中を生き抜いてきた人々の遺物は、現代を生きる私たちに何を語っているのでしょうか。(N.T)



《センター長のつぶやき》 4月のカレンダー

4月の母の誕生日に、仕事を終えケーキを買って久万の実家に帰った。「なんで帰ってきたんや」。母は自分の誕生日を忘れていたようであった。「今日は母ちゃんの誕生日よ」。「なんや、まだ3月やろが」とカレンダーを見た。3月であった。母は本気で思っていたのだ。これもコロナ騒動が続く影響か。



ケーキを食べようとしたら、息子から私のスマホにビデオ通信が入った。画面に映る息子の顔に母は驚いていた。(自分の顔が孫たちに見えているとは知らない。)

「ばあちゃん誕生日おめでとう」。「仕事楽しくしよるか。コロナ大丈夫か」。続いて明日結婚式の予定だった横浜の娘から「ばあちゃん誕生日おめでとう。コロナにかかったらいかんよ」。「かかったら結婚式に行けんけん。延期になったけど、元気出せよ。」

小さくなった母のはにかんだ笑顔を忘れることはない。翌日一日田んぼをすいて、田植えの打ち合わせをして帰るとき、母のカレンダーは4月になっていた。(DOIG)

新型コロナ感染予防で...

「今年はインフルエンザや嘔吐下痢に罹る子どもがほとんどいなかったんですよ」と。未知のウイルスに対して、手洗いの徹底など感染予防をしたことは、保育所で例年流行していた他の病気の予防に大きな効果を上げていました。巡回訪問の折、「ママが手の洗い方を教えてくれたんよ」と、指先から手首まで丁寧に洗って見せてくれた子がいます。つけるのが楽しくなるような可愛い手作りマスクの子がいます。部屋の空気が爽やかだと肌で感じた時、必ず窓が開いています。そこには大人が子どもの命を守り、健やかな成長のために気遣う心を感じます。今、実行していることは、期間限定でなく一生を健康に過ごすために必ず役に立ち、今後の危機管理に活かされると信じています。(K)



伊予市子ども総合センター

伊予市総合保健福祉センター2階

伊予市尾崎3-1 ☎989-6226

携帯 080-2974-4580